

1. 需給見通し

農林水産省は、「砂糖及びでん粉の価格調整に関する法律」（昭和40年法律第109号）により、四半期ごとに砂糖および異性化糖の需給見通しを公表している。令和3年3月に「令和2砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し（第3回）」を公表した。

令和2砂糖年度（10月～翌9月）の見通し

【砂糖】

総消費量：177万5000トン（前回見通しから2万トン減）

総供給量：180万6000トン（同1万9000トン減）

【加糖調製品】

消費量および供給量：48万5000トン（同3000トン減）

【異性化糖】

消費量および供給量：82万9000トン（前回見通し同）

（1）砂糖の消費量

令和2砂糖年度（10月～翌9月）の砂糖の消費量は、177万5000トン（前年度比1.1%増）と見通している（表1）。内訳を見ると、分みつ糖の消費量は、近年の消費動向を勘案し、引き続き新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響は見込まれるものの、ワクチン接種が進むにつれて徐々に人の移動が活発になることや東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「東京オリンピック・パラリンピック」という）の開催を前提とした需要の増加が一定程度想定されることから、174万トン（同1.1%増）と見通している。含みつ糖の消費量は近年の消費動向などを勘案し、3万5000トン（前年度同）と見通している。

（2）砂糖の供給量

令和2砂糖年度の砂糖の供給量は、180万6000トン（前年度比0.5%増）と見通している。内訳を見ると、分みつ糖の供給量は178万8000トン（同0.5%増）、含みつ糖は1万8000トン（同5.3%減）と見通している。国内産糖（分みつ糖）の供給量は、

てん菜糖については、てん菜の作付面積が前年産に比べて0.7%（約400ヘクタール）増加し、春作業は順調に推移し、6月以降も好天に恵まれ、全体的に順調な生育となったことから、産糖量は63万2000トン（前年産比3.0%減）、供給量は63万トン（精製糖換算〈以下同じ〉。前年度比3.0%減）と見通している。甘しや糖については、サトウキビの収穫面積が前年産に比べ2.3%（約500ヘクタール）増加し、作柄については、島によっては春先の低温・日照不足が懸念され、また、8月、9月および10月に台風が襲来したことにより、一部地域では被害が見られたものの、全体としては台風被害は比較的少なく、おおむね順調な生育となり、産糖量は14万7000トン（前年産比11.0%増）、供給量は14万1000トン（前年度比11.0%増）と見通している。

表1 令和2砂糖年度における砂糖の需給見通し

(単位：千トン)

		令和元砂糖年度 (実績)	令和2砂糖年度				合計	
			10月-12月 (実績)	1月-3月 (実績見込み)	4月-6月 (見通し)	7月-9月 (見通し)		
消費量	分みつ糖	1,721	456.9	389.7	442.1	451.3	1,740	
	含みつ糖	35	6.7	11.8	9.5	6.9	35	
	合計	1,756	463.6	401.5	451.6	458.2	1,775	
供給量	国内産糖	分みつ糖	777	362.3	365.8	43.0	-	771
		含みつ糖	11	1.1	7.5	0.8	-	9
		小計	788	363.4	373.3	43.8	-	781
	輸入糖	分みつ糖	1,002	285.9	137.0	291.7	302.7	1,017
		含みつ糖	8	1.6	3.6	2.5	0.8	8
		小計	1,010	287.5	140.6	294.2	303.5	1,026
	合計	分みつ糖	1,779	648.2	502.8	334.7	302.7	1,788
		含みつ糖	19	2.7	11.1	3.3	0.8	18
		小計	1,797	650.9	513.9	338.0	303.5	1,806
	期末在庫		374	567.3	667.9	554.3	399.6	400

資料：農林水産省「令和2砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し（第3回）」

注1：分みつ糖は精糖ベースの数量、含みつ糖は製品ベースの数量である。

注2：輸入糖の分みつ糖供給量は、機構売買数量である。

(3) 加糖調製品の需給

令和2砂糖年度の加糖調製品の消費量は、引き続きCOVID-19の影響は見込まれるものの、東京オリンピック・パラリンピックの開催を前提とした需

要の回復などが一定程度想定されることから、年間では48万5000トン(前年度比2.2%減)と見通している(表2)。

表2 令和2砂糖年度における加糖調製品の需給見通し

(単位：千トン)

	令和元砂糖年度 (実績)	令和2砂糖年度				合計
		10月-12月 (実績)	1月-3月 (実績見込み)	4月-6月 (見通し)	7月-9月 (見通し)	
消費量	496	121.8	114.2	122.1	126.7	485
供給量	496	121.8	114.2	122.1	126.7	485

資料：農林水産省「令和2砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し（第3回）」

注1：改正糖価調整法（2018年施行）に基づき調整金の対象とされた加糖調製品を対象としている。

注2：消費量は対象となる加糖調製品の輸入量（財務省貿易統計より算出）を踏まえて見通しており、供給量は消費量に見合った量が供給されるものとして見通している。

注3：令和2砂糖年度の消費量は、令和元砂糖年度および平成30砂糖年度の輸入実績を踏まえて見通している。

(4) 異性化糖の需給

令和2砂糖年度の異性化糖の消費量は、引き続きCOVID-19の影響は見込まれるものの、ワクチン接種が進むにつれ、徐々に人の移動が活発になると見込まれるとともに、東京オリンピック・パラリン

ピックの開催を前提に、清涼飲料向けの需要の増加も一定程度想定されることから、近年の需要がおおむね維持され则认为、82万9000トン（前年度比5.6%増）と見通している(表3)。

表3 令和2砂糖年度における異性化糖の需給見通し

(単位：千トン)

	令和元砂糖年度 (実績)	令和2砂糖年度				合計
		10月-12月 (実績)	1月-3月 (実績見込み)	4月-6月 (見通し)	7月-9月 (見通し)	
消費量	785	165.2	171.3	257.5	235.5	829
供給量	785	165.2	171.3	257.5	235.5	829

資料：農林水産省「令和2砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し（第3回）」
注：標準異性化糖（果糖55%ものの固形ベース）に換算した数量である。

2. 輸入動向

【粗糖の輸入動向】

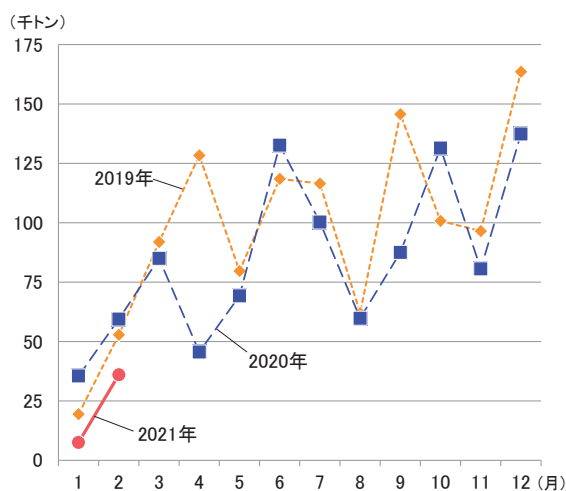
2月の輸入量は前年同月から大幅に減少

財務省「貿易統計」によると、2021年2月の甘しや糖・分みつ糖（HSコード 1701.14-110）および甘しや糖・その他（同1701.14-200の豪州）の輸入量は、3万5999トン（前年同月比39.4%減、前月比4.8倍）であった（図1）。

甘しや糖・分みつ糖については輸入実績が無く、甘しや糖・その他については輸入先国は豪州で、国別の輸入量は次の通りであった（図2）。

豪州 3万5999トン
（前年同月比39.4%減、前月比5.5倍）

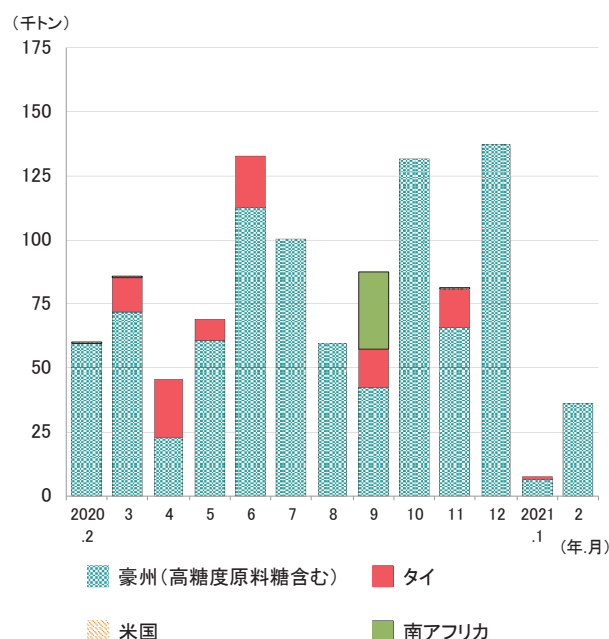
図1 粗糖の輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」

注：HSコード1701.14-110、1701.14-200（豪州のみ）

図2 粗糖の国別輸入量の推移

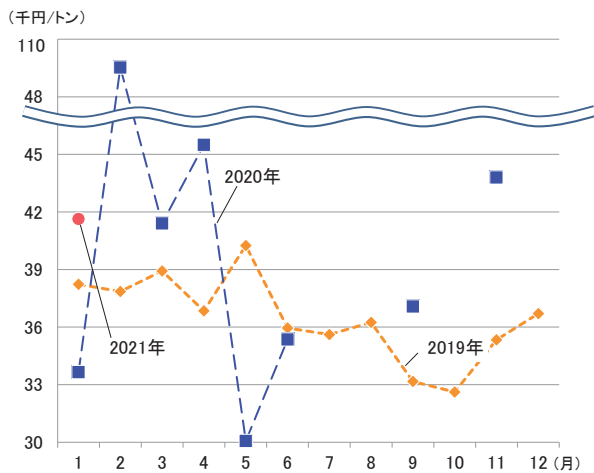


資料：財務省「貿易統計」

注：HSコード1701.14-110、1701.14-200（豪州のみ）

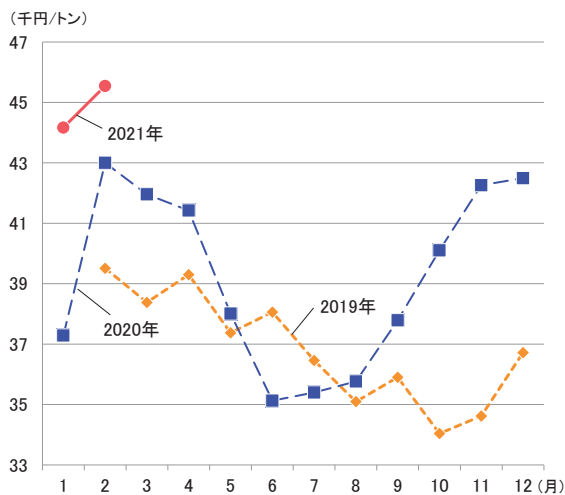
2021年2月の甘しや糖・その他の豪州からの高糖度原料糖の1トン当たりの輸入価格は、4万5547円（前年同月比5.9%高、前月比3.1%高）であった（図4）。

図3 粗糖 (HSコード1701.14-110) の輸入価格の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：2020年7月、8月、10月、12月および2021年2月は輸入実績なし。

図4 高糖度原料糖 (HSコード1701.14-200の豪州) の輸入価格の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：2019年1月は輸入実績なし。

【含みつ糖の輸入動向】

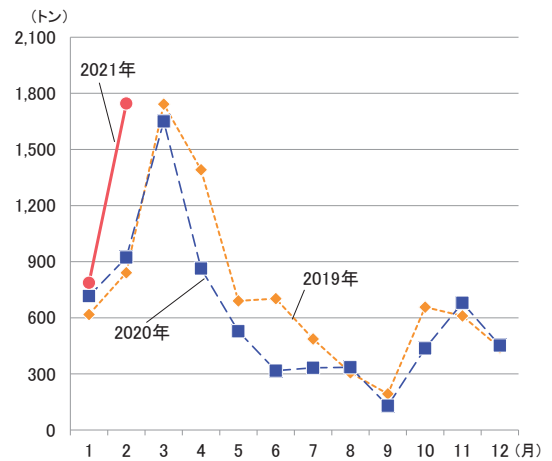
2月の輸入量は前年同月から大幅に増加

財務省「貿易統計」によると、2021年2月の含みつ糖 (HSコード 1701.13-000、1701.14-190) の輸入量は、1746トン (前年同月比89.4%増、前月比2.2倍) であった (図5)。

輸入先国はタイ、中国、フィリピン、ポリビアおよびコスタリカの5カ国で、国別の輸入量は次の通りであった (図6)。

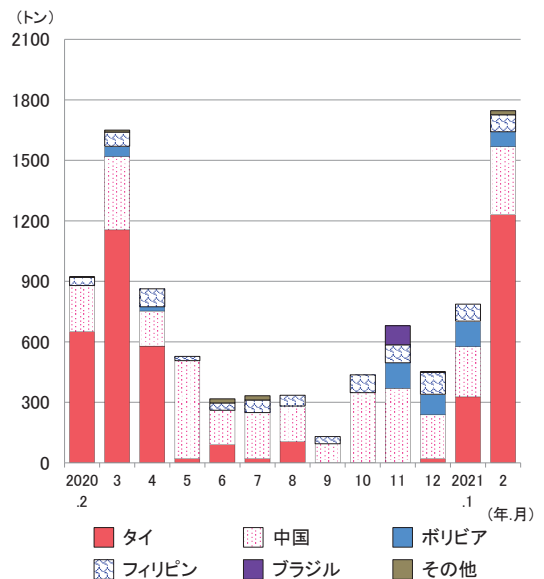
タイ	1233トン
(前年同月比89.4%増、前月比3.8倍)	
中国	334トン
(同46.5%増、同34.1%増)	
フィリピン	84トン
(同2.0倍、前月同)	
ポリビア	75トン
(前年同月輸入実績なし、前月比40.9%減)	
コスタリカ	20トン
(前年同月および前月輸入実績なし)	

図5 含みつ糖の輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード1701.13-000、1701.14-190

図6 含みつ糖の国別輸入量の推移



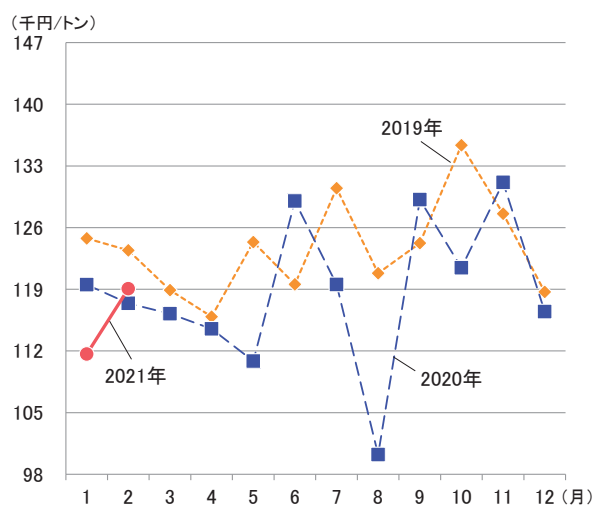
資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード1701.13-000、1701.14-190

2021年2月の1トン当たりの輸入価格は、11万9054円（前年同月比1.4%高、前月比6.6%高）であった（図7）。

国別の1トン当たりの輸入価格は、次の通りであった。

タイ	11万7815円
（前年同月比0.5%高、前月比7.4%高）	
中国	11万9102円
（同0.2%高、同7.6%高）	
フィリピン	10万9750円
（同1.9%高、同7.6%高）	
ボリビア	12万9680円
（前年同月輸入実績なし、同4.0%高）	
コスタリカ	18万800円
（前年同月および前月比輸入実績なし）	

図7 含みつ糖の輸入価格の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード1701.13-000、1701.14-190

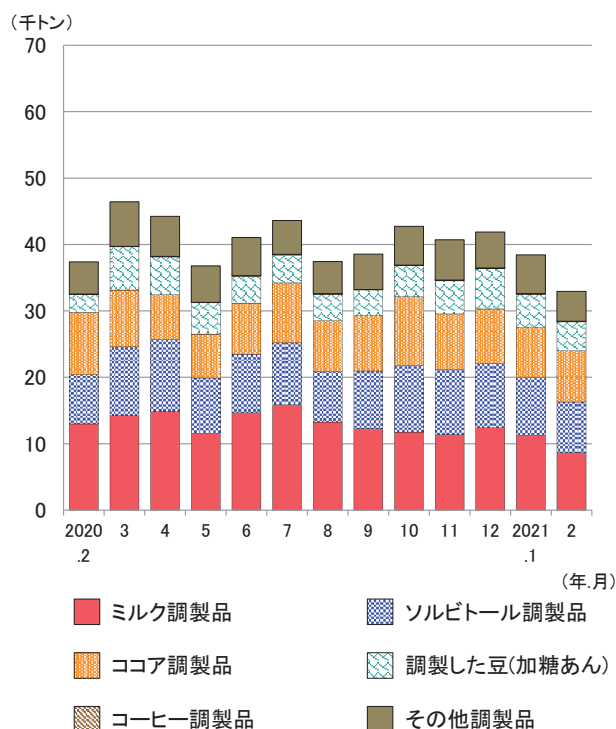
【加糖調製品の輸入動向】

2月の加糖調製品の輸入量は前年同月からかなり大きく減少

財務省「貿易統計」によると、2021年2月の加糖調製品の輸入量は、3万2944トン（前年同月比11.9%減、前月比14.3%減）であった（図8）。

品目別の輸入量は、表4の通りであった。

図8 加糖調製品の品目別輸入数量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：各品目のHSコードは、次の通り。
ココア調製品：1806.10-110、1806.10-190、1806.20-112、1806.20-113、1806.20-121、1806.20-129、1806.32-212、1806.32-213、1806.90-212、1806.90-213
コーヒー調製品：2101.11-110、2101.11-190、2101.12-111、2101.12-112、2101.12-246
調製した豆（加糖あん）：2005.40-191、2005.40-199、2005.51-191、2005.51-199
ミルク調製品：1901.90-219、2106.90-283、2106.90-284
ソルビトール調製品：2106.90-510
その他調製品：2008.99.218、2106.90-590、2101.20-246、2106.90-252、2106.90-253、2106.90-281、2106.90-282、2106.10-219

表4 加糖調製品 品目別輸入量（2月）

（単位：トン）

区分	輸入量	前年同月比 (増減比)	前月比 (増減比)
ミルク調製品	8,643	▲ 33.4%	▲ 23.1%
ソルビトール調製品	7,628	1.7%	▲ 12.7%
ココア調製品	7,770	▲ 15.9%	3.1%
調製した豆(加糖あん)	4,346	56.5%	▲ 13.6%
コーヒー調製品	54	24.3%	▲ 9.4%
その他調製品	4,501	▲ 7.3%	▲ 22.9%
合計	32,944	▲ 11.9%	▲ 14.3%

資料：財務省「貿易統計」

3. 異性化糖の移出動向

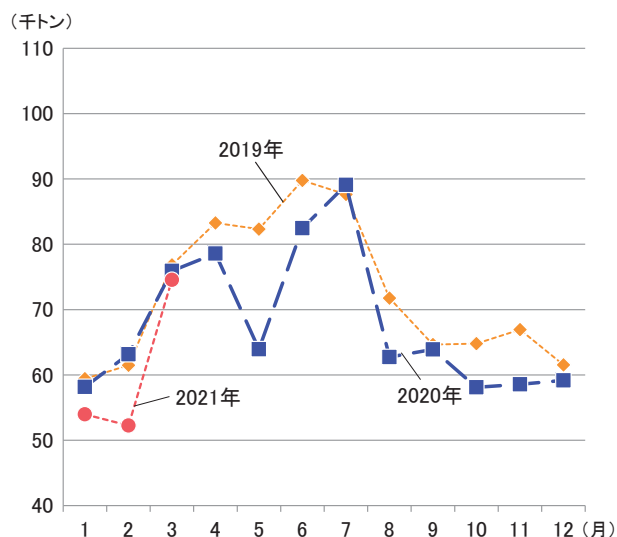
3月の移出量は前年同月からわずかに減少

2021年3月の異性化糖の移出量は、7万4567トン(前年同月比1.8%減、前月比42.7%増)であった(図9)。

同月の規格別の移出量は、次の通りであった(図10)。

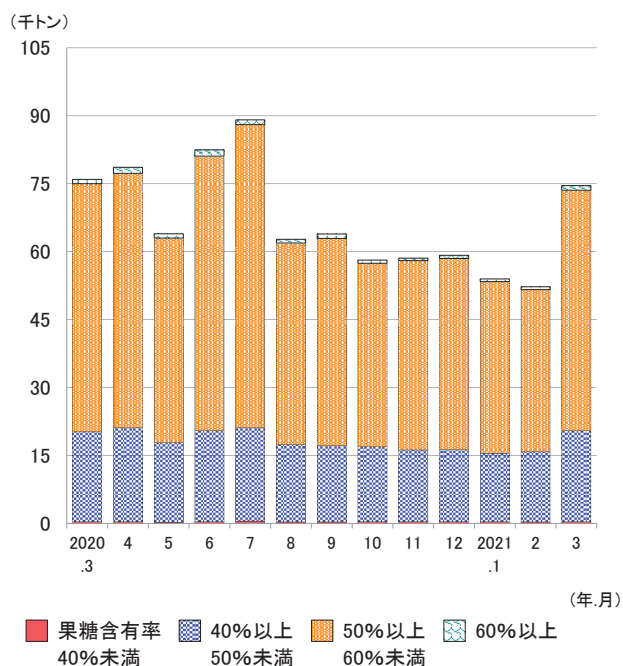
果糖含有率40%未満	444トン
(前年同月比13.4%増、前月比31.4%増)	
同40%以上50%未満	2万78トン
(同1.2%増、同29.7%増)	
同50%以上60%未満	5万3031トン
(同3.2%減、同48.1%増)	
同60%以上	1013トン
(同10.1%増、同62.0%増)	

図9 異性化糖の移出量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図10 異性化糖の種類別移出量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

4. 価格動向

【市場価格】

砂糖は前月から5円程度値上がり

3月の糖種別・地域別の砂糖価格(日経相場)は、次の通りであった。

上白糖(大袋)

東京	1キログラム当たり187~193円
大阪	同187~193円
名古屋	同191~196円
関門	同191~196円

上白糖(小袋)

東京	1キログラム当たり199~206円
大阪	同202~207円

本グラニュー糖(大袋)

東京	1キログラム当たり192~198円
大阪	同192~198円
名古屋	同196~201円

ビート・グラニュー糖（大袋）

東京 1キログラム当たり187～193円
 大阪 同187～193円
 名古屋 同189～194円

3月の異性化糖の価格（日経相場、大口需要家向け価格、東京、タンクローリーもの、JAS規格品、水分25%）は、次の通りであった。

果糖分42%もの

1キログラム当たり131～132円

果糖分55%もの

同137～138円

【小売価格】

3月の上白糖小袋の地域間の価格差は最大で26.4円

KSP-POSデータ(全国535店舗)によると、スーパーにおける3月の上白糖小袋（1キログラム）の平均小売価格は、190.7円（前年同月差1.7円安、前月差1.2円高）であった。最も高かったのは中国・四国で、最も安かった関東などとの価格差は26.4円であった。

同月の地域別^(注)の平均小売価格は、次の通りであった（表5）。

(注) 地域の内訳は、次の通りである（以下同じ）。

関東など：茨城県、栃木県、群馬県、長野県、山梨県、静岡県

首都圏：東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県

中部：新潟県、富山県、石川県、福井県、岐阜県、三重県、愛知県

関西：大阪府、兵庫県、京都府、滋賀県、和歌山県、奈良県

表5 上白糖の地域別平均小売価格（3月）

(単位：円/kg)

地域	平均価格	前年同月価格差	前月価格差
北海道	195.9	▲ 2.7	▲ 1.7
東北	197.2	▲ 1.3	▲ 0.8
関東など	179.1	▲ 2.9	1.0
首都圏	187.5	▲ 0.6	5.9
中部	181.3	▲ 1.1	▲ 0.7
関西	193.4	▲ 0.6	1.0
中国・四国	205.5	0.3	1.4
九州・沖縄	187.5	▲ 9.0	▲ 1.0
全平均	190.7	▲ 1.7	1.2

資料：農畜産業振興機構調べ（原典：KSP-POSデータ〈全国535店舗〉）

3月のグラニュー糖小袋の地域間の価格差は最大で69.2円

KSP-POSデータ(全国535店舗)によると、スーパーにおける3月のグラニュー糖小袋（1キログラム）の平均小売価格は、243.4円（前年同月差0.8円安、前月差0.5円安）であった。最も高かったのは東北で、最も安かった北海道との価格差は69.2円であった。

同月の地域別の平均小売価格は、次の通りであった（表6）。

表6 グラニュー糖の地域別平均小売価格（3月）

(単位：円/kg)

地域	平均価格	前年同月価格差	前月価格差
北海道	202.4	▲ 0.2	0.0
東北	271.6	▲ 3.0	▲ 1.8
関東など	245.4	▲ 2.9	▲ 7.5
首都圏	255.1	▲ 0.3	0.0
中部	251.4	0.6	0.0
関西	233.4	1.8	1.4
中国・四国	257.6	▲ 0.9	▲ 0.3
九州・沖縄	216.8	▲ 0.6	1.2
全平均	243.4	▲ 0.8	▲ 0.5

資料：農畜産業振興機構調べ（原典：KSP-POSデータ〈全国535店舗〉）

3月の三温糖小袋の地域間の価格差は最大で40.1円

KSP-POSデータ(全国535店舗)によると、スーパーにおける3月の三温糖小袋(1キログラム)の平均小売価格は、233.5円(前年同月差5.3円安、前月差5.8円高)であった。最も高かったのは九州・沖縄で、最も安かった関東などとの価格差は40.1円であった。

同月の地域別の平均小売価格は、次の通りであった(表7)。

表7 三温糖の地域別平均小売価格(3月)

(単位:円/kg)

地域	平均価格	前年同月価格差	前月価格差
北海道	225.4	▲ 11.2	▲ 1.3
東北	250.6	▲ 4.7	0.0
関東など	213.1	▲ 24.6	1.5
首都圏	219.4	▲ 8.4	0.1
中部	228.3	▲ 0.4	0.5
関西	229.5	▲ 0.6	▲ 0.1
中国・四国	250.8	3.6	▲ 0.1
九州・沖縄	253.2	▲ 8.0	54.6
全平均	233.5	▲ 5.3	5.8

資料:農畜産業振興機構調べ(原典:KSP-POSデータ(全国535店舗))

【購入金額および購入量】

2月の砂糖の支出金額は前年同月と比べわずかに下落

総務省「家計調査」によると、2021年2月における100世帯当たりの砂糖の購入頻度は36、1世帯(2人以上)当たりの支出金額は85円(前年同月比1.2%安、前月比16.4%高)であった(図11)。また、同月の1世帯当たりの砂糖の購入数量は、365グラム(同2.0%増、同30.8%増)であった(図12)。

図11 1世帯当たりの砂糖に係る支出額の推移

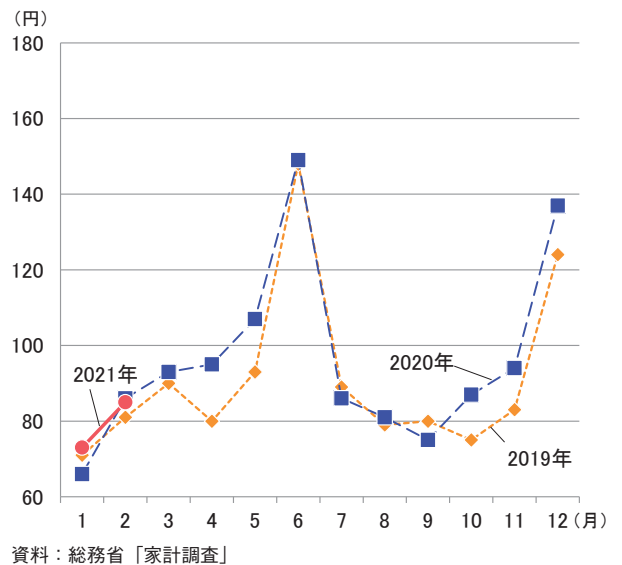


図12 1世帯当たりの砂糖の購入数量の推移

